

デンカYG-35プレミックス

Denka
デンカ株式会社

1 はじめに

「デンカYG-35プレミックス」は、起泡剤と増粘剤とさらに微粉末原材料など、各種混和材をバランスよく配合したプレミックスタイプの軽量充填モルタル材料です。起泡剤と増粘剤との配合比を最適化することで安定したエアの導入が可能で、モルタルの密度を安定化させます。さらに微粉末原材料の配合によって良好な流動性を付与しつつ分離抵抗性を向上させ、長期の強度発現性を確保します。

この「デンカYG-35プレミックス」は流動性とその保持性能が優れており、ブリーディングの発生もありません。更にモルタルの密度が小さいため、従来の鋼板巻き耐震補強工法で課題だった、充填後のはらみ変形を小さくします。

2 特長

①施工が容易です。

モルタルの流動性とその保持が優れており、空隙のない施工を可能にします。現場作業効率向上し、経済的にも有利です。

②軽量モルタルです。

モルタルの単位容積質量が、従来の汎用モルタル（約 $2.2\text{t}/\text{m}^3$ ）の約60%（約 $1.3\text{t}/\text{m}^3$ ）と小さいため、モルタル充填後の鋼板のはらみ変形を小さくします。

③プレミックスタイプですので品質が安定しています。

工場で厳しい品質管理のもと製造したプレミックスタイプですので、現場で水を加え練混ぜるだけで良好なモルタルが得られます。

④変形追従性に優れています。

3000×10^{-6} 以上の終局ひずみを示すので、高い変形追従性を有します。

⑤ブリーディングが発生しません。

ブリーディングが発生しないので、既存コンクリートと一体化が図れます。

3 用途

- 鋼板巻き耐震補強用充填材

4 一般物性

- 荷姿：20kg袋
- 外観：セメント系薄灰白色
- 使用温度範囲：10～35℃
- 水量範囲：W/粉体=60～70%
(標準65%)

5 配合

項目	目標軟度 J_{14} 漏斗値	YG-35 プレミックス	標準練混ぜ水	練上り量
1袋当たり (kg)	3~8秒	20.0kg	13.0kg	25.6 ㍓
m^3 配合 (kg/m^3)		780	507(標準)	1000 ㍓

※使用水量は、材料温度、環境温度、ミキサの形状などにより変化しますので、予め試験練りを行い、適性水量を確認して下さい。

6 物性例(20℃)

試験項目	測定値		試験方法
単位容積質量(t/m ³)	直後	1.29	JIS A1171
	30分後	1.28	
	60分後	1.28	
J ₁₄ 漏斗値(sec)	直後	4.7	JSCE-F 541
	30分後	5.2	
	60分後	5.3	
ブリーディング率(%)	0.0		JSCE-F 542
膨張収縮率(%)	0.32		JSCE-F 542
圧縮強度(N/mm ²)	7日	10.2	JSCE-G 505
	28日	14.6	
終局ひずみ(×10 ⁻⁶)	28日	3980	---

7 使用上の注意

【練混ぜ】

- ▶練混ぜ水は油、塩類、有機物など含まない清浄な水を使用してください。
- ▶使用水量は、材料温度、環境温度、ミキサの形状、練り量などにより変化しますので、予め試験練りで適性水量を決めて下さい。
- ▶練混ぜはモルタル専用高速ミキサか、900rpm以上のハンドミキサを使用して下さい。ハンドミキサの回転羽根はステンレス製または鉄製を使用し、アルミ製は絶対に使用しないで下さい。アルミ製は異常膨張の原因となります。
- ▶練混ぜ水の量が規定外の場合は、モルタルの性状が損なわれることがありますので、指定の水量以外は使用しないで下さい。

【保管上の注意】

- ▶普通セメントより吸湿性が高いため、一旦開封したものはその日のうちに使用して下さい。
- ▶製品は直射日光、雨水の影響を受けない乾燥した室内に貯蔵保管して下さい。

Denka
デンカ株式会社

データ等記載内容についてのご注意

- 本書記載のデータ等記載内容は、代表的な実験値や調査に基づくもので、その記載内容についていかなる保証をなすものではありません。
- ご使用に際しては、必ず貴社にて事前にテストを行い、使用目的に適合するかどうかおよび安全性については、貴社の責任においてご確認ください。
- 本書記載の当社製品およびこれらを使用した製品を廃棄する場合は、法令に従って廃棄してください。
- ご使用になる前に、詳しい使用方法や注意事項等を技術資料・製品安全データシートで確認してください。
これらの資料は、当社の担当部門にご用意しておりますので、お申しつけください。
- 本書の記載内容は、新しい知見により断りなく変更する場合がありますので、ご了承ください。

- 水や汗・涙等の水分と接触すると強いアルカリ性になり、皮膚、目、呼吸器等を刺激したり、粘膜に炎症を起こします。
- 目に入れないこと。入った場合は、直ちによく洗浄し、専門医の診断を受けること。●皮膚に付けないこと。
- 鼻や口に入れないこと。●保護メガネ、防塵マスク、ゴム手袋を着用すること。●子供に触れさせないこと。